

わたしを束ねないで

しんかわかずえ
新川和江

わたしを束たばねないで

※あらせいとうの花のように

白ねぎい葱のように

束たばねないでください　わたしは稲穂いなほ

秋あき　大だい地ちが胸むねを焦こがす

見み渡わたすかぎりの金きん色いろの稲穂いなほ

稲穂



あらせいとう



わたしを止めないで

ひょうほんばこ 標本箱の昆虫のよう

こうげん 高原からきた絵葉書のよう

と 止めないでください
わたし 私は羽撃き

こやみなく空のひろさをかいさぐつて
いる

目には見えないつばさの音

つばさ

標本箱



わたしを注^{そそ}がないで

日常性^{にちじょうせい}に薄^{うす}められた牛乳^{ぎゅうにゅう}のように

ぬるい酒^{さけ}のように

注^{そそ}がないでください わたしは海^{うみ}

夜^{よる} とほうもなく満^みちてくる

苦^{にが}い潮^{しお} ふちのない水

注ぐ

潮

海水・海流

海のこと



わたしを名^な付^づけないで

娘^{むすめ}という名　妻^{つま}という名

重^{おも}々^{おも}しい母^{はは}という名でしつらえた座^ざに

坐^{すわ}りきりにさせないでください　わた

しは風^{かぜ}

りんごの木と

泉^{いずみ}のありかを知^しっている風^{かぜ}

泉

水がわき出るところ



わたしを区切^{くぎ}らないで

コンマピリオド
, や・いくつかの段落^{だんらく}

そしておしまいに「さようなら」があ

ったりする手紙^{てがみ}のようには

こまめにけりをつけないでください

わたしは終^{おわ}りのない文章^{ぶんしょう}

川^{おな}と同じに

はてしなく流^{なが}れていく 拡^{ひろ}がっていく

一行^{ぎよう}の詩^し